吉祥寺二葉栄養調理専門職学校

学校関係者評価報告書

（2022 年度）

※ 旧 学校法人古屋学園　二葉栄養専門学校
2022 年 4 月 1 日 法人名および学校名変更

報告書作成日：2023 年 8 月 31 日

学校法人 二葉総合学園
吉祥寺二葉栄養調理専門職学校

吉祥寺二葉栄養調理専門職学校　学校関係者評価委員会報告書について

学校法人古屋学園 二葉栄養専門学校（2022 年 4 月 1 日より、学校法人 二葉総合学園 吉祥寺二葉栄養調理専門職学校に校名変更）は、質の向上を目指し学校自己点検・自己評価制度を導入するため、2008 年に「自己点検及び評価等実施委員会」を組織し、同年５月に 2008 年度の「自己点検・自己評価」を実施しました。以来、点検・評価結果による学校運営の改善に努めてきましたが、2010 年からは同年に策定された「学校法人古屋学園学校品質向上５ヵ年計画」とリンクさせ、より有機的で実効性のあるものとし継続的に実施してきました。

これまでの活用をより適切かつ充実したものとするために、2012 年度には本校と関係の深い、外部の方々のご意見を学校運営に反映させるべく、委員会を設置し「学校関係者評価委員会」を開催いたしました。多くの率直かつ貴重なご意見をいただき、あらためて「学校関係者評価」の意義と重要性を認識した次第です。

2013 年８月には、文部科学省が認定する職業実践専門課程が制度化され、本校においても、2015 年度より本課程の認定を受け、従来にも増して高度な知識と技術を身につけた、実践力のある職業人を養成する教育機関として、その社会的責任を果たしてきました。また、2014 年度に「学校品質向上５カ年計画」、2017 年度に「新世二葉」中期計画（３ヵ年）」が終了し、2018 年度より「新世二葉セカンドステージ」～2 ヵ年計画～ を実施して参りました。姉妹校の二葉ファッションアカデミー（2022 年度末廃校）、二葉製菓学校（2022 年 4 月より吉祥寺二葉製菓専門職学校）との三校一元化を推進する中で、2020 年 4 月より「FUTABA 中期計画（3 カ年）」を策定し、取り組んでおります。建学の理念である「涵養の精神と職業人としての自立」の具現化、知識と技術のバランスのとれた質の向上及び質の保証などを掲げ、教職員が一丸となって取り組んでおります。

この度、広く関係者の評価を問い、ご意見を頂戴いたしたく 2022 年度「学校関係者評価委員会」の報告書を公表いたします。

2023 年 8 月 31 日
学校法人 二葉総合学園
吉祥寺二葉栄養調理専門職学校
学校長　小川 万紀子

学校関係者評価委員ご紹介

＜職能団体＞

一般社団法人　全国栄養士養成施設協会	顧問	有 馬　克 彦　氏
公益社団法人　全国調理師養成施設協会	専務理事	大 崎　久 美 子　氏

＜業界団体＞

公益社団法人　日本メディカル給食協会	専務理事	新 井　秀 一　氏
公益社団法人　全日本司厨士協会	理事長	大 西　元 年　氏

＜地域団体＞

東京都武蔵野食品衛生協会	会長	服 部　清 道　氏

＜保護者代表＞　杉 田　哲 朗　氏

＜卒業生代表＞　間 嶋　美 貴 子　氏

学内担当者

学校法人二葉総合学園	理事長	手 嶋　達 也
学校法人二葉総合学園	事務局長	寺 島　秀 親
吉祥寺二葉栄養調理専門職学校	校長	小 川　万 紀 子
	広報室　室長	大 熊　隆 宏
	栄養士科　学科長	伊 沢　由 紀 子
	調理師科　学科長	小 林　益 男
	教務課　係長	遠 藤　直 希
	教務課　主任	岩 槻　恵 子

学校関係者評価委員会　次第

開催日時　　2023 年７月 31 日(月)　14：00～15：45

開催場所　　吉祥寺二葉栄養調理専門職学校　２号館　３階 312 教室

出 席 者　　学校関係者評価委員７名、学内担当者８名（欠席者なし）

議　　題　　（1）2022 年度　自己点検・自己評価について報告
　　（2）意見交換

次　　第

１．開　会

２．学校法人二葉総合学園　理事長　手嶋　達也　挨拶

３．吉祥寺二葉栄養調理専門職学校　校長　小川　万紀子　挨拶

４．学校関係者評価委員ご紹介および学内出席者紹介

５．報告および意見交換
　（1）2022 年度　自己点検・自己評価について報告
　（2）意見交換

基準毎の評価

基準１　教育理念・目的・育成人材

建学の精神「涵養の精神と職業人としての自立」のもと、①高度な専門知識及び技術の習得、②徹底した実践教育、③人間性豊かな明晰なる感性の涵養を建学・教育の理念として掲げている。明確な教育理念・目的に基づき、時代に即した“社会に貢献できる栄養士・管理栄養士・調理師”の養成に取り組んでいる。人材育成目標を実現するため、複数の資格取得のためのカリキュラムの見直し等を適宜行っている。

製菓学校等を併設している本校の特性を活かした、ダブル・トリプルライセンス取得による多様な人材育成、また学外実習の単位数を多くし、実践力を身につける人材育成は本校の特色といえる。

基準２　学校運営

建学の理念や目標とする人材像に基づく、学校の目的・目標を実現するための学校運営方針は設立趣意書・中期計画（３ヵ年）等で明確に定められている。教職員にも明示され、各種会議を通じて周知を図っている。具体的な事業計画は「年間行事予定表」等で明示している。

運営組織や意思決定機能は「学園職務分掌」や「校務分掌」で明確になっており、中期計画・年間行事予定等の学校運営に係わる重要な案件は、評議員会・理事会で決議に諮ることもあり、校長を頂点とした意思決定システムにて、各種会議や事業を実行するなかで特に問題なく機能している。

従来の人事考課制度を改定し、建学の理念、中期目標等とリンクした人事考課の設定により、適切な評価、処遇、人材育成を行い有効な運用に努めている。

基準３　教育活動

教育目標や目標とする人材像は、業界の人材ニーズを反映するよう努めている。教育内容・レベルは就業年限に対応するとともに、業界のニーズに応えられるものとなるよう適宜検討・見直しを行っている。

現在のカリキュラムは、2021 年度に外部の学識経験者を交えた「カリキュラム検討委員会」により全面的に見直し改定を行った新カリキュラムであり、2022 年４月より導入している（完成年度は 2025 年度）。教育目標達成のために十分な内容を持ち、体系的に編成されているが、社会の変化とともに教育に求められるニーズも変化しており、適宜見直しを図り適切な教育内容となっている。

専門性、資格等要件を備えた教員の確保に努めており、さらに、校長・学科長等により授業観察を行い、教員の専門性や教授力について評価・把握している。また、学生による教育・授業評価を実施し、リフレクションシートにより、教育効果を高めている。さらに、教員の専門性・教授力向上を図るため学会・研修会等への積極的な参加を勧めるための支援体制を整えている。教員間の協力・協業は授業編成や管理栄養士国家試験対策等で、適切かつ効果的に行われている。

成績評価・単位認定の基準は明確に規定されており、進級・卒業審査はこの基準に則して適切に行われている。

取得できる各種資格は学則やカリキュラムで明確に定められており、資格取得のためのサポートは教育内容でも指導・支援体制からも十分なものになっている。

基準４　教育成果

就職支援室の就職指導と支援体制を整備し、企業訪問による就業先企業の拡大や求人依頼、さらに個別面談を徹底して行っている。また、外部カウンセラーによるキャリアカウンセリングを実施して就業意識を高めるなどの結果、ほぼ１００％の就職率を達成している。

調理師、栄養士の免許は卒業と同時に全員取得するため、修業年限内に卒業できるよう学習指導・生活指導を強化し、成果をあげている。管理栄養士国家試験対策の支援体制は整っており、更なる合格率アップに向け指導・強化を図っている。

保護者との連携のもと学生の学習・生活状況の的確かつ迅速な把握に努め、退学防止への努力を払っている。

就職支援室担当者の企業訪問等により、卒業生の動向はよく把握している。学外実習が多いために新入生のための特別講習や、学外実習の事前特別講義等の講師が積極的に学生を指導している。各種のメニューコンテストには多くの在校生が参加しており、高い評価を得ている。

基準５　学生支援

就職・進学指導、生活面での相談、経済的側面での支援、健康管理等の体制は整っているといえる。特に就職指導では就職支援室に十分な専任を配置するとともに、外部カウンセラーによるキャリアカウンセリングを定期的に実施するなど、個別相談重視の就職指導体制は、有効に機能し、成果を上げている。

保護者との連携を重視した学生相談は、主としてクラス担任が受け持つが、必要に応じて学科長、教務課、校長がバックアップしている。また心理面においても学校医と相談できる体制をとっており、相談体制は評価できるものである。

経済面の支援が重要課題となっている。学費の分納・延納制度で対応するほか、外部の奨学金の活用や教育ローンの紹介・斡旋等を積極的に行っている。働きながら学ぶことができる「自立進学制度」は高く評価できる。遠隔地出身者の経済的負担軽減を図るため、学生寮を学園として保有・管理している。専門業者の「学生会館」も積極的に紹介・斡旋している。

尚、2019 年度より高等教育修学支援（高等教育無償化）の確認校に認定された。

基準６　教育環境

施設・設備は 2010 年落成の２号館の建設に際して、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されたものになっている。加えて３号館（ラボラトリー）の改修工事も行い、ハード面の環境は一気に整備されている。調理設備や学習機器は日進月歩であるが極力、最新設備の整備に努めている。

調理師科の学外実習、栄養士科の校外実習、管理栄養士学科の臨地実習を実施しているが、外部の関係機関との連携・教育体制は整っており、問題はない。

「消防計画」に基づく防災組織の編成、防災訓練の実施など、防災体制は整備され、問題なく機能している。

基準７　学生の募集と受け入れ

学生募集は経営推進課に広報室を設けており、担当職員が広報会議により募集計画を企画し、実行している。教育内容等が理解しやすい学校案内（「入学案内」）の提供、オープンキャンパスを含めた入学相談会の実施、遠隔地や社会人に対応できるようオンライン説明会や夜間個別相談会の実施、随時の窓口相談、ホームページによる募集案内、高校訪問等により活発な学生募集活動が適切に行われており特に問題はない。また、就職実績・状況、各種資格取得実績、卒業生の活躍状況等の教育成果は冊子等により正確に伝えられている。しかし、管理栄養士科以外の学科においては、定員確保が課題となっている。

入学選考は学科ごとに「入学選考基準」を設け、「入学審査会」により適切かつ公平に行われている。学納金は中長期的計画に基づき理事会で決定されるが、教育内容や学生・保護者の負担を考慮した妥当なものとなっている。

基準８　財務

本校の財務は学校法人二葉総合学園の一部門として取り扱われている。過去における財務経過（法人）は校舎の建替えも重なり 2008 年度期を底として厳しい状況にあったが、2010 年度期からは回復に向かっている。少子化のなか校舎新築負債の返済期間にあるが、中長期的に安定した財務を図っているといえる。

予算・収支計画は年度毎に各部門より事業計画に基づいた予算案が出され、評議員会・理事会の決議を得て執行されている。

決算は、税理士による適切な監査が実施されており、監事による監査を経て評議員会にて報告・意見聴取をおこない理事会で決議することとなっている。監査・評議員会・理事会、全てがスケジュール化され、翌年度の予算に反映されている。

決算報告にて開示された財産目録・事業活動収支計算書・貸借対照表・資金収支計算書及び事業報告書を毎年５月末までに作成しており、関係者からの閲覧要求があれば応じる体制をとっている。

基準９　法令等の遵守

法令や専修学校設置基準等については、毎年『養成施設指定基準に係る自己点検表』（東京都生活文化局私学部）に則り適正なる遵守と運営に努めている。個人情報に関する職員への啓発活動は、継続的・日常的に『個人情報保護法』の啓発を行っている。更に本校の『個人情報保護規程』に従い、個人情報の取り扱いに特段の注意をしていることを評価する。

2008 年度から「自己点検・自己評価」を実施し、公開するとともに問題の把握・改善に役立てている。今後、評価結果のより積極的な活用に努める。

基準 10　社会貢献

“地域とともに歩む”を標榜している本校は行政機関、学校、企業、業界団体及び地域との連携・交流を積極的に行っている。本校の教育資源や施設を活用した各種の講習会・料理教室・料理コンクール等の実施、講習会・講演会等への講師派遣、講習会への施設の開放・提供が主たる

事業であるが、地域社会への貢献度は高く評価できる。

　活動時間の確保や安全面で、学生のボランティア活動は自主的なものとしているが、必要に応じて奨励・支援をしている。

以上

基準項目ごとの本校の現状報告および学校関係者評価・意見

基準１　教育理念・目的・育成人材像等

現状報告	2020 年度より FUTABA 中期計画（３ヶ年計画）を遂行中である。他に大きな変更はなし。
質疑	「定員確保が最重要課題である」との記載があるが、現況はどのような状態なのか。
回答	管理栄養士科のみ定員を満たしており、栄養士科、調理実践科、調理師科、姉妹校の製菓学校は全て定員満たしていない状況である。入学希望者は全員合格にせざるを得ない状況である。学生数が確保できなければ経営面において問題となるため、定員確保が現在の最重要課題だと捉えている。

基準２　学校運営

現状報告	大きな変更はなし。
意見	FUTABA 中期計画は 2020 年から３カ年の計画のため 2023 年３月で終了している。完成年度までに成し遂げられたこと等、次年度の「自己点検・自己評価報告書」に記載があることが望ましい。
回答	来年度の「自己点検・自己評価報告書」に記載する予定である。また、中期計画は３年ごとに策定しているため、2023 年度からの中期計画も策定しておりすでにスタートしている。計画は優先順位をつけて実施している。現在は、全館でのエアコンの改修工事を優先して実施している。

基準３　教育活動

現状報告	2022 年度より新カリキュラムを導入しており、完成年度が 2025 年度（2026 年３月まで）となる。 カリキュラムの内容について業界など外部者の意見を反映しているかについて、不十分との判断より評価を１段階下げている。 学生による授業評価については、コロナ禍の間は対面授業がほとんど行われず学生による授業評価アンケートを実施できなかったが、2022 年度より対面授業が増えアンケートを再開したため評価を１段階上げた。 要件を備えた教員を確保しているかについて、評価を１段階下げた。これは、昨年管理栄養士科について関東信越厚生局の監査があり、教員の資格要件について非常に厳しい評価を受けたためである。
質疑	「栄養士科・管理栄養士科は単位互換をしていなかったが、新カリキュラム導

	入により単位互換の制度を実施している」とあり、その成果は大きく評価できる。他の高等教育機関との単位互換制度はどうか。
回答	現在、栄養士科２年から管理栄養士科３年への編入時の単位交換規則を教務課の方で整えており、運用していく予定である。 一方、他の高等教育機関との単位互換制度は確立していない。大学などを卒業した後に本校に入学する学生についても、既に取得している科目の単位は認めず全て履修することになっている。
質疑	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているかという点について、現状認識として「業界が求めている人材像との温度差は否めない」とあるが温度差とは具体的にどのようなことなのか。
回答	企業は即戦力になる人材を求めている。本校もそのようなレベルの学生を育てるよう努力しているが、即戦力までは至らないことが往々にしてある。その認識のずれを「温度差」と表現している。

基準４　教育成果

現状報告	就職率については、コロナ禍で落ち込んだ求人は回復傾向となっている。 資格取得に関しては、管理栄養士国家試験の合格率が前年度 96.7%であったのに対し92.0%であった。管理栄養士養成施設(新卒)全体の合格率が87.2%であったことを考えると、本校は高い合格率であると言える。 退学率は若干上がってきている。主な理由は進路変更、体調面、精神的不安、成績不振などが増えている。 在校生や卒業生の作品や発表が外部のコンテスト等で評価されたかに関しては、調理師科にて調理技術コンクールの全国大会に出場したため、評価を１段階上げた。
質疑	退学率が前年度より上がっているが、この原因は何だと考えられるか。 「管理栄養士科以外の学科は定員に満たないため入学希望者は全員合格にしている」とのことだが、学力的に困難な学生も入学していることが退学につながっているのではないか。
回答	退学の理由は、進路変更が最も多い。栄養士の資格取得には何が必要かを把握しないまま入学し、１年生の前期から理系の科目を履修せねばならず、学力的に困難を生じる学生が一定数存在する。教職員が放課後に補習を行ってフォローしているが、追いつくことができず学業を断念する学生がいる。実際、１年生の前期で退学する学生もいる。このような理由での退学が近年は見受けられるため、退学率が増加していると考えている。 管理栄養士科以外の学科は、応募人数が少なく入学選考試験を実施できず、面接のみとなってしまうので、「不合格」とすることは難しい。学力不足の可能性のある学生に不合格を出せない状況であり、これが大きな課題であると認

	識している。
意見	退学してしまう学生がいることが非常に大きな損失ではないか。低減するためには、学生が何を考え何を求めているのかをアンケートなどで把握することが必要ではないか。若い人の気持ちに寄り添った教育が必要だと考える。また、オープンキャンパスや面談などを通して、どのような勉強をするのかを入学前によく理解してもらう必要がある。

基準５　学生支援

現状報告	学生支援として、健康管理面では、学校医の委嘱契約を結んでいる（健康診断結果を再度診断依頼し、必要に応じて専門医への紹介をしている）。心理面の相談も、学校医と月 2 回相談できる体制をとっている。しかし、健康管理室に医師・看護師が常駐しておらず、看護師等の常駐を検討していきたい。近年は体調不良のため健康管理室を利用する学生が増加傾向であり、更なる充実が必要である。
意見	学校医と相談できる体制をとっていることは、大変良いことではある。しかし医師は医療に特化していると解釈すると、学校生活全般に関する事項については、いわゆる心理カウンセラー等によるフォロー体制があるのが望ましいと考える。
回答	最近は身体面よりもメンタル面での相談が多くなってきている。心療内科等を受診している学生もいるが、全く医療機関にかかっていない学生も多く存在している。この点を鑑みると、心理カウンセラーあるいは心療内科・精神科などに携わっている医師・看護師などの配置を検討する必要があると考えている。

基準６　教育環境

現状報告	大きな変更はなし。
意見	（学生の話では、）施設・設備について、学生用パソコンの動作が遅いこと、教室に設置されているスクリーンが小さいので後ろの席からは見えない、とのことである。学生の学習環境をよりよいものにしていくことが望ましい。
回答	学生用のパソコンは新たに購入予定がある。また、ケーブル交換、機器の清掃などの小規模な機材のメンテナンスは行っている。各教室のプロジェクターも設置して 10 年以上経っているため、交換することを検討している。

基準７　学生の募集と受け入れ

現状報告	特記事項として、近年はオンラインおよび夜間個別相談会を実施している点を追加した。また、募集定員を満たす募集活動となっているかという点につい

	ては、昨年度の募集状況より、評価を１段階下げた。
質疑	学生募集において、同窓会との連携があるのか。
回答	卒業生との連携は行われている。

基準８　財務

現状報告	2022 年度末に姉妹校である二葉ファッションアカデミーが廃校となっており、その前年より学生募集を停止していたため減収となっている。 資産運用面では，2022 年３月末時点で、最も資産運用リスクが高いと言われている株式等の収益性商品が資産運用規程に示されている 20%を超過している。しかし、株式や投資信託の配当金を重視した運用に変更した結果である。現在の株高の状況を考慮すると、投資戦略として妥当であったと考えられる。 長期の借入金は順調に返済が進んでおり、2025 年度末には返済が完了する予定である。借入金返済後に支出 2 年間分を確保することを目標として進めてきたが、2023 年度末にはこの目標を達成できる見込みである。より良い教育環境の整備のためには、資産面を強化していく必要があると考えている。 昨今の国際情勢より光熱費・材料費の高騰が見込まれていたが、それを想定した予算としていたためその範囲内で収まったが、今後どのように推移するかは不透明である。

基準９　法令等の遵守

現状報告	2009 年度から「自己点検・自己評価」を実施し、その結果を公開するとともに問題等の改善に努めている。学校ホームページに「自己点検・自己評価報告書」を継続して掲載し情報提供を行っているので、評価を１段階上げている。その他、大きな変更はなし。

基準 10　社会貢献

現状報告	地域で開催される各種の委員会・講演会・講習会等へ本校の教職員を委員、講師として派遣、本校の施設を活用した事業にも積極的に取り組んできたが、コロナ禍においては、多くのイベントが中止となり規模縮小となっていた。しかし、2022 年度はコロナが少し落ち着いてきたため、講師派遣やボランティア活動を増やすことができた。課題としては、講師派遣できる教員が不足している点である。卒業生や非常勤講師の派遣依頼ができるよう体制を整えたいと考えている。
質疑	学生ボランティアの募集はどのくらいあるのか。また学生の実態はどうか。
回答	子ども食堂や学会の受付ボランティアなどに参加する学生が多くいる。また、

	三鷹ファームの「芋煮会」というイベントへのボランティア参加は行っている。そのため、ボランティア活動に参加したいと思っている学生は少なくないと認識している。しかし、定期的なボランティア活動は、授業の忙しさやアルバイトなどより、参加が難しいようである。

その他

意見	テーブルマナーについて報告書に何も書かれていないが、これから社会に出ていく上でテーブルマナーは非常に重要だと考える。実施を検討できないか。
回答	テーブルマナーは、毎年教育拡充費に含めて費用を学生から徴収している。2022 年度までは、コロナ禍でテーブルマナーを実施できず、卒業記念パーティーにて簡単なテーブルマナーを実施した次第である。本年度はコロナ禍以前の形式に戻し、全学科でテーブルマナーを 11 月と 2 月に実施する予定である。

以上